

Attracting Tomorrow



2023年3月期 上半期決算説明会

TDK株式会社
IR・SRグループ
2022年11月1日

- 2023年3月期 上半期連結業績概要
専務執行役員 山西 哲司
- 2023年3月期 通期見通しについて
代表取締役社長執行役員 齋藤 昇

2023年3月期 上半期連結業績概要

専務執行役員
山西 哲司

山西でございます。本日はご多忙のところ、当社2023年3月期上半期決算説明会に多数ご参加いただき、誠にありがとうございます。それでは私から連結業績概要についてご説明します。

2023年3月期 上半期決算のポイント

Attracting Tomorrow 

地政学的リスクや景気減速懸念等を背景に、主にICT市場での減速が見られたものの、EX需要等が貢献し、売上高・営業利益とも過去最高を更新*。

- 売上高は前年同期比25.5%増、営業利益は前年同期比47.4%増
- 円安が加速し業績に大きく影響

▶自動車生産は部材の供給不足の影響を受けながらも、緩やかな回復傾向が継続。xEV化、ADAS化の進展により部品需要は堅調に推移。受動部品、センサの販売が貢献。

▶ICT市場では、PC、タブレットの大幅な減速、加えて、データセンター向けの需要が減速し、HDDヘッドの販売が減少。スマートフォン全体の需要低迷も、新モデル向け二次電池、センサの販売が貢献。

▶エネルギー価格の高騰に伴い、家庭用蓄電システムの需要が拡大し、中型二次電池の販売が増加。

▶再生可能エネルギーや省エネ関連設備向けの産業機器用電源、受動部品の販売が拡大。

*営業利益は2017年3月期に計上の事業譲渡益を除いたベースで比較

まず決算のポイントですが、当上半期において、中国では新型コロナウイルス感染症の感染拡大によるロックダウンからの回復の動きが見られた一方、ロシアによるウクライナ侵攻に伴う地政学的リスクの高まりにより世界経済の景気減速への懸念が強まりました。主にICT市場での需要に減速が見られましたが、EX関連の需要は引き続き堅調に推移したうえ、急速に進行した円安効果も加わり、売上高は半期ベースで過去最高となる前年同期比25.5%の増収、営業利益は前年同期比47.4%の増益となりました。

自動車市場では、半導体供給不足等サプライチェーン上の制約が継続しているものの、中国をはじめとして全体的に緩やかな回復が見られたうえ、xEV比率の増大やADAS化の進展により部品需要が引き続き堅調に推移した結果、受動部品やセンサの販売が拡大しました。

ICT市場では、コロナ禍で好調を維持してきたノートPCやタブレット端末の需要が大幅な減速となったうえ、データセンター向けの需要も景気減速やサプライチェーン上の在庫調整により急激な減速となった結果、HDDヘッド・サスペンションの販売が大幅に減少しました。スマートフォンの需要は、中国での回復が見られず全体的に低迷していますが、大手得意先の新モデル向けに二次電池やセンサの売上が伸びています。

また、地政学的リスクの高まりによる世界的なエネルギーの供給不安や価格高騰の影響から、家庭用蓄電システムの需要が急速に拡大したこともあり、中型二次電池の販売は引き続き増加しています。再生可能エネルギーや省エネ需要の高まりにより、関連する設備向けの産業機器用電源や受動部品の販売も拡大しています。

世界経済の先行きに対する不透明感が強まるなか、部品需要には急激な変化が生じていますが、事業基盤の拡大によってEX需要を確実に捉えるとともに、特徴ある製品を継続的に提供することでDX需要を捉え売上拡大につなげ、今後も売上高と営業利益の向上を図りたいと考えています。

2023年3月期 上半期連結業績概要

Attracting Tomorrow 

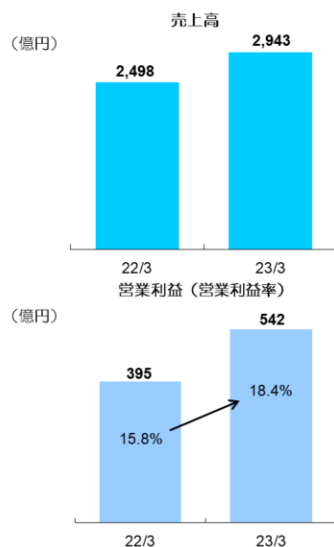
(億円)	2022年3月期 第2四半期累計実績 (2021.4.1～2021.9.30)	2023年3月期 第2四半期累計実績 (2022.4.1～2022.9.30)	前年同期比	
			増減	増減率 (%)
売上高	8,942	11,220	2,278	25.5
営業利益	816	1,203	387	47.4
営業利益率	9.1%	10.7%	+1.6%	-
税引前利益	848	1,199	350	41.3
当期利益	689	870	181	26.3
1株当たり利益 (円)	181.71	229.39	-	-
為替	対ドルレート (円)	109.79	133.80	21.9%の円安
	対ユーロレート (円)	130.86	138.67	6.0%の円安
為替変動による 影響金額	売上高：約1,641億円の増収 営業利益：約369億円の増益			

(注) 2022年3月期の有価証券報告書における連結財務諸表から、従来の米国会計基準に替えて国際財務報告基準 (IFRS) を適用しています。
当資料に記載の前連結会計年度の財務数値についても、IFRSに準拠して表示しております。

続いて業績概要です。対ドル等の為替変動で売上高は約1,641億円の増収、営業利益で約369億円の増益影響を含み、売上高は1兆1,220億円、前年同期比2,278億円、25.5%の増収、営業利益は1,203億円、前年同期比387億円、47.4%の増益、税引前利益は1,199億円、当期利益は870億円、1株当たり利益は229円39銭となりました。

為替の感応度は、対ドルに対する急速な円安、ユーロ安や収益構成の変化もあり、営業利益で円とドルの関係において1円の変動で年間約20億円、円とユーロの関係において約6億円となっています。

上半期各事業の状況（受動部品事業）



売上高 2,943億円（前年同期比17.8%増）
営業利益 542億円（前年同期比37.0%増）

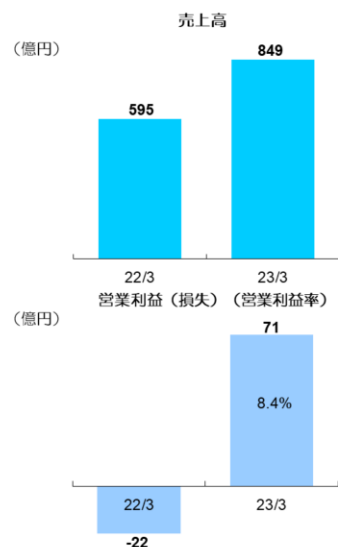
- セラミックコンデンサ
 - ↳ 前年同期比で増収増益。
 - ↳ 自動車市場向け、特にxEV向け販売が増加。
- アルミ・フィルムコンデンサ
 - ↳ 前年同期比で増収増益。
 - ↳ 産業機器市場の再生可能エネルギー用途及び自動車市場向けの販売が増加。
- インダクティブデバイス
 - ↳ 前年同期比で増収増益。
 - ↳ 自動車市場及び産業機器市場向けの販売が増加。
- 高周波部品
 - ↳ 前年同期比で増収減益。
 - ↳ 産業機器市場及び自動車市場向けの販売が増加。
- 圧電材料部品・回路保護部品
 - ↳ 前年同期比で増収増益。
 - ↳ 産業機器市場向けを中心に販売が増加。

上半期のセグメント別の状況についてご説明します。

受動部品セグメントの売上高は2,943億円、前年同期比17.8%の増収となりました。自動車市場、特にxEVやADAS向けに部品需要が引き続き堅調に推移したうえ、産業機器市場向け需要も再生可能エネルギー向けや生産設備向けの需要が堅調に推移しました。一方、ICT市場においてはスマートフォン需要が減少しました。この結果、スマートフォン向けの売上構成比が高い高周波部品以外の事業については増収増益となりました。特にMLCCはフル生産が継続しているうえ、製品ミックスの好転もあり、収益性が大きく向上しています。

上半期各事業の状況（センサ応用製品事業）

Attracting Tomorrow 



売上高 849億円（前年同期比42.7%増）
営業利益 71億円（前年同期比―%増）

● センサ

- 前年同期比で大幅な増収、利益は黒字転換。
- 温度・圧力センサは、自動車市場向け販売が増加。
- 磁気センサは、ホールセンサの販売が自動車市場に加えてICT市場向けで増加、TMRセンサは、ICT市場向けの採用拡大等により販売が大幅に増加し、収益も大きく拡大。
- MEMSセンサは、モーションセンサ及びマイクロフォンが顧客基盤及びアプリケーションの拡大によりICT市場向け等に販売が拡大。収益も大きく改善。

2023年3月期上半期決算説明会

© TDK株式会社・2022
IR・SRグループ・2022/11/1・7

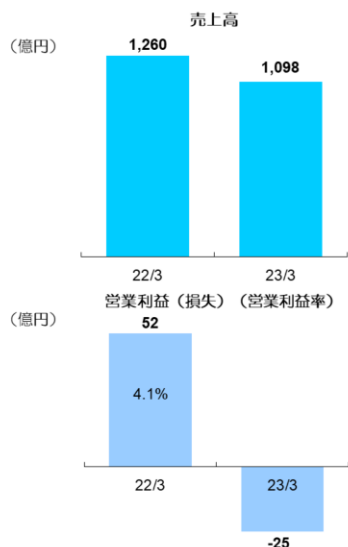
センサ応用製品セグメントの売上高は849億円、前年同期比42.7%の大幅増収、営業利益は増収効果により赤字だった前期より収益が大きく改善し、71億円の黒字と大幅増益となりました。

ロシア・ウクライナ問題に伴う自動車用部品のサプライチェーン制約により、主に欧州の自動車向けで受注減となった影響を受け、温度・圧力センサは減収減益となりました。一方、磁気センサのホールセンサは、自動車向けに加え、スマートフォン向けでも販売が拡大しました。TMRセンサは、自動車向け売上が堅調に推移したうえ、スマートフォン向けに採用が拡大したこともあり、売上が大幅に拡大しました。磁気センサは全体で大幅な増益となっています。

MEMSセンサは、需要が低調なICT市場においても売上が拡大したうえ、自動車市場やゲーム機向け、ドローン等の産業機器向けでも顧客基盤及びアプリケーション拡大によって増収となりました。若干の赤字は残るものの、収益の改善が進みました。

上半期各事業の状況（磁気応用製品事業）

Attracting Tomorrow **TDK**



売上高 1,098億円（前年同期比12.8%減）
営業損失 △25億円（前年同期比－%減）

- HDDヘッド・サスペンション
↳ HDDヘッド及びHDDサスペンションは、PC用途及びデータセンター向けHDDの生産台数低迷により減収減益。
- マグネット
↳ 前年同期比で損失が拡大。

2023年3月期上半期決算説明会

© TDK株式会社・2022
IR・SRグループ・2022/11/1・8

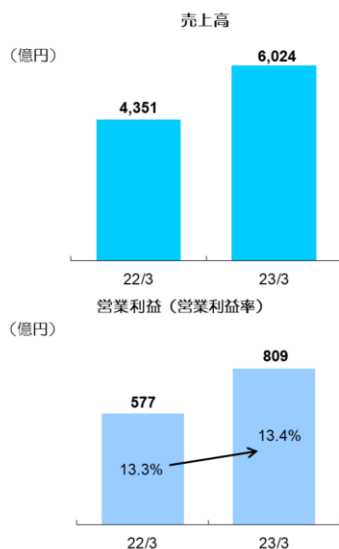
磁気応用製品セグメントの売上高は1,098億円、前年同期比12.8%減収、営業損益は25億円の赤字となりました。

HDDヘッド・サスペンションにおいては、PC向けHDD需要がさらに減少する一方、ニアライン用HDD需要は第2四半期以降回復していくと見込んでいましたが、景気減速等の影響もあり、データセンター投資の減少やHDD在庫調整が急激に進みました。この結果、ニアライン用HDDヘッドの上半期の販売数量は前回の見通しから約13%の減少、HDDサスペンションにおいても約18%の減少となり、大幅な減収減益となりました。

マグネットはxEV向けの販売が増加し増収となりました。赤字が継続しているものの、為替影響を除く実質ベースでは収益が改善しました。

上半期各事業の状況（エナジー応用製品事業）

Attracting Tomorrow 



売上高 6,024億円（前年同期比38.5%増）
営業利益 809億円（前年同期比40.1%増）

- エナジーデバイス（二次電池）
 - ↳ 前年同期比で増収増益。
 - ↳ モバイル用途（スマートフォン、タブレット、ノートPC）向け生産台数は低迷も、新モデル向け小型二次電池の販売が拡大。
 - ↳ 家庭用蓄電システム向けを中心とした中型二次電池の販売が拡大。
- 電源
 - ↳ 堅調な設備投資需要により、産業機器用電源は前年同期比で増収増益。

2023年3月期上半期決算説明会

© TDK株式会社・2022
IR・SRグループ・2022/11/1・9

エナジー応用製品セグメントの売上高は6,024億円、前年同期比38.5%の増収、営業利益は809億円、前年同期比40.1%の増益となりました。

二次電池においては、スマートフォン、タブレットやノートPCなどモバイル用途向けの販売数量が減少しましたが、小型二次電池の売上は製品ミックスの良化もあり増収を確保しました。家庭用蓄電システム向けを中心とした中型二次電池の売上も順調に拡大し、為替影響やサーチャージを除く実質ベースでも前年の水準を上回りました。営業利益は小型二次電池の数量減少による減益影響があるものの、販売管理費も含めたコスト全体の効率化や、中型二次電池の収益改善により、為替影響を除く実質ベースで増益を確保しました。

産業機器用電源は、半導体製造装置等の産業機器向け需要が引き続き堅調に推移し、増収増益となりました。

営業利益増減分析

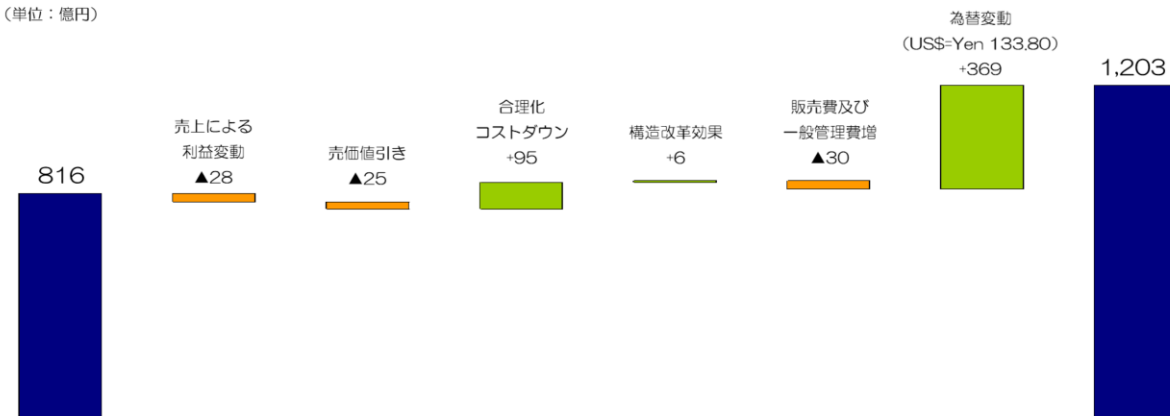
Attracting Tomorrow 

2022年3月期
上半期
816億円

営業利益 +387億円

2023年3月期
上半期
1,203億円

(単位：億円)



2023年3月期上半期決算説明会

© TDK株式会社 • 2022
R・SRグループ • 2022/11/1 • 10

営業利益387億円増益の増減分析をご説明します。円安為替変動による増益369億円を除くと18億円の増益となります。主にHDDヘッド・サスペンションの販売数量減少や売価値引きの影響により合計53億円の減益影響があったものの、二次電池や受動部品を中心とした合理化コストダウン、また前期第4四半期に実施した構造改革の効果により、減益影響を吸収しています。販売管理費は前年同期比で30億円増加していますが、CATLに対するライセンス料約41億円が前期第1四半期には計上されていなかったことを考慮すると、実質的に販売管理費も減少となり、営業利益の増加に寄与しています。需要環境が不透明な状況のなか、経営効率を高め収益を向上させるよう努めています。

2023年3月期 第2四半期連結業績概要

(億円)	2022年3月期 第2四半期実績	2023年3月期 第2四半期実績	前年同期比	
			増減	増減率 (%)
売上高	4,741	6,115	1,374	29.0
営業利益	503	757	254	50.5
営業利益率	10.6%	12.4%	+1.8 pt	-
税引前利益	524	760	236	45.0
当期利益	419	555	136	32.5
1株当たり利益 (円)	110.59	146.51	-	-
為替	対ドルレート (円)	110.07	25.6%の円安 7.4%の円安	
	対ユーロレート (円)	129.83		
為替変動による 影響金額	売上高：約1,004億円の増収 営業利益：約243億円の増益			

第2四半期の連結業績概要についてご説明します。

売上高は6,115億円、前年同期比29.0%の増収、営業利益は757億円、前年同期比50.5%の増益、税引前利益は760億円、当期利益は555億円となり、全ての項目において四半期ベースで過去最高を更新しました。

セグメント別四半期実績

Attracting Tomorrow 

(億円)		2022年3月期 第2四半期 (A)	2023年3月期 第1四半期 (B)	2023年3月期 第2四半期 (C)	前年同期比増減 (C) - (A)		前四半期比増減 (C) - (B)	
					増減	増減率(%)	増減	増減率(%)
売上高	コンデンサ	498	576	629	130	26.2	53	9.1
	インダクティブデバイス	453	493	528	75	16.5	35	7.0
	その他受動部品	329	347	370	41	12.5	23	6.7
	受動部品合計	1,280	1,416	1,527	246	19.3	110	7.8
	センサ応用製品合計	327	390	459	132	40.5	69	17.7
	磁気応用製品合計	654	551	547	△ 107	△ 16.3	△ 4	△ 0.8
	エナジー応用製品合計	2,355	2,601	3,423	1068	45.3	822	31.6
	その他	125	146	159	34	26.8	13	8.6
合計		4,741	5,105	6,115	1374	29.0	1010	19.8
営業利益	受動部品	215	246	296	81	37.8	50	20.3
	センサ応用製品	10	28	44	34	347.3	16	56.7
	磁気応用製品	23	△ 7	△ 18	△ 41	-	△ 11	-
	エナジー応用製品	343	273	535	192	55.9	262	95.7
	その他	△ 3	4	△ 2	1	-	△ 5	-
	小計	587	544	855	268	45.5	311	57.2
	全社および消去	△ 85	△ 98	△ 98	△ 13	-	△ 0	-
	合計	503	446	757	254	50.5	311	69.7
営業利益率		10.6%	8.7%	12.4%	+1.8pt	-	+3.7pt	-
為替	対ドルレート (円)	110.07	129.36	138.20				
	対ユーロレート (円)	129.83	137.95	139.39				

2023年3月期上半期決算説明会

© TDK株式会社・2022
R・SRグループ・2022/11/1・12

当期第1四半期から第2四半期のセグメント別売上高及び営業利益の増減要因についてご説明します。

まず、受動部品セグメントの売上高は、第1四半期から110億円、7.8%の増収、営業利益は50億円、20.3%の増益となりました。自動車、産業機器市場向けを中心に全市場向けに販売が増加し、全事業とも増収増益で推移しました。

センサ応用製品セグメントの売上高は、69億円、17.7%の増収、営業利益は16億円、56.7%の増益となりました。温度・圧力センサは、自動車向け需要が中国を中心に回復した結果、増収増益を確保しました。磁気センサは、TMRセンサとホールセンサともに、大手得意先の新モデルが第2四半期に大幅に増加するという季節要因もあり増収となりました。営業利益は、TMRセンサで新モデル立ち上げに関わる一時費用が含まれるなかでも増益となっています。MEMSセンサは、モーションセンサが中国スマートフォン向けの販売において減少したものの、マイクロフォンの販売増加により売上高はほぼ横ばい、営業利益は付加価値が高い製品の販売増加もあり赤字が縮小しました。

磁気応用製品セグメントの売上高は、4億円、0.8%の減収、営業利益は11億円の減益となりました。売上高は、HDDヘッドの販売においてニアライン用HDD向けの需要回復を見込み、ヘッド全体で約40%の数量増加と前回予想しましたが、急激な需要減速により約8%の増加にとどまりました。HDDの組立販売も減少し、ヘッド全体では第1四半期から微増にとどまりました。HDDサスペンションもヘッドと同様に主要顧客向け需要が急減し、全体では減収減益となりました。磁石はxEV向け販売が増加し増収となっています。

エナジー応用製品セグメントの売上高は、822億円、31.6%の増収、営業利益は262億円、約1.9倍の増益となりました。二次電池はICT向け小型電池の販売数量が中国スマートフォン向けで第1四半期並みにとどまる一方、大手得意先の新モデル向けに販売が増加しました。また、家庭用蓄電システム向けを中心に中型二次電池の売上が増加し、全体で大幅な増収となりました。営業利益は、サーチャージを進め価格高騰の影響を吸収したことに加え、コスト改善も進め大幅増益となりました。産業用電源も増収により増益となり、収益性も大幅に向上しました。

私からの説明は以上です。

2023年3月期 通期見通しについて

代表取締役社長執行役員
齋藤 昇

齋藤でございます。2023年3月期通期業績の見通しについてご説明します。

2023年3月期 連結業績及び配当金見通し

Attracting Tomorrow



(億円)	2022年3月期 通期実績	2023年3月期 業績予想 (2022年8月発表)	2023年3月期 業績予想 (2022年11月発表)	業績予想対前期比	
				増減	増減率(%)
売上高	19,021	22,000	22,200	3179	16.7
営業利益	1,668	1,850	2,000	332	19.9
営業利益率	8.8%	8.4%	9.0%	+0.2 pt	-
税引前利益	1,725	1,900	2,000	275	15.9
当期利益	1,313	1,450	1,470	157	12.0
1株当たり利益(円)	346.44	382.54	390.35	-	-
配当金	中間：100円(33.3円) 期末：45円 年間：- (78.3円) *(株式分割後)	中間：53円 期末：53円 年間：106円	中間：53円 期末：53円 年間：106円	-	-
為替 対ドルレート	112.33	120.00	135.00	-	-
対ユーロレート	130.53	130.00	137.00	-	-
固定資産の取得 (設備投資)	2,913	3,000	3,000	87	3.0
減価償却費	1,770	2,000	2,100	330	18.6
研究開発費	1,653	1,900	1,800	148	8.9

2023年3月期上半期決算説明会

© TDK株式会社・2022
IR・SRグループ・2022/11/1・14

まず始めに、2023年3月期通期の連結業績及び配当金の見通しと、その前提となる市場背景についてご説明します。

市場予測の前提となる世界経済成長率(IMF発表)は、4月時点で3.6%、10月にはさらに3.2%に下方修正されました。

生産活動については、一部地域での新型コロナウイルス感染症の感染再拡大に伴うロックダウン等から緩やかな回復の動きが見られた一方、ロシア・ウクライナ情勢に伴う地政学的リスクの継続や、想定を上回るペースでの金利上昇により、世界景気に対する減速懸念が高まりました。

このようなマクロ経済環境を受け、当社に関係する主要デバイスの需要、生産台数の予測を見直しました。現在の受注状況を踏まえ、通期売上高を2兆2,200億円、営業利益 2,000億円、税引前利益を2,000億円、当期利益1,470億円と前回公表値から上方修正します。

下期見通しの前提となる為替レートは、対ドル、対ユーロともに135円と見ています。配当金については期初予定通りとし、中間配当 53円、期末配当53円、年間106円を予定しています。

また、設備投資はマクロ景気や需要動向を踏まえて見直していますが、円安の影響により期初からの変更はありません。研究開発費は1,900億円から1,800億円に減額しています。減価償却費は2,100億円を見込んでいます。

2023年3月期の市場予測

Attracting Tomorrow 

Production Trend (Unit: Mil. unit)	FY2022	5/11公表	11/1 最新予測
		FY2023 (YoY)	FY2023 (YoY)
Automobile*	79	83 (+5%)	84 (+6%)
<i>therein</i> xEV	10.1	14.4 (+43%)	15.4 (+52%)
Smartphone	1,319	1,319 (±0%)	1,184 (-10%)
<i>therein</i> 5G Smartphone	586	663 (+13%)	620 (+6%)
HDD	250	231 (-8%)	161 (-36%)
<i>therein</i> Nearline	75	77 (+3%)	67 (-11%)
Notebook PC	258	240 (-7%)	205 (-21%)
Tablet	165	152 (-8%)	147 (-11%)

*Automobileは商用車を含む台数

次に、通期見通しの前提となる主要デバイスの需要と生産台数についてご説明します。

自動車の生産については、部材不足が若干緩和していますが、xEVの増加を勘案し、期初時点の見込みから微増となる8,400万台を見込んでいます。

一方、ICT市場を代表するスマートフォンの生産については、期初時点で前年度比横ばいと見込みましたが、現時点では前年度比10%減少となる11億8,400万台と見ています。

PCやタブレットの生産は、期初時点の見込みから大幅に下方修正し、PCは前年度比21%減少となる2億500万台、タブレットは前年度比11%減少となる1億4,700万台と見込みました。これに伴い、HDDの生産については、期初時点で前年度比8%減少と見込んでいましたが、PC、データセンター向け需要の急減により、現時点では、前年度比36%減少となる1億6,100万台を見込んでいます。

第3四半期の売上高増減イメージ

Attracting Tomorrow 

(億円)

セグメント 区分	2023年3月期 第2四半期実績	2023年3月期 第3四半期予想 (対2Q)
受動部品	1,527	△1%～△4%
センサ応用製品	459	±0%
磁気応用製品	547	△14%～△17%
エネルギー応用製品	3,423	±0%
その他	159	—
合計	6,115	△3%～±0%

為替レート \$/Yen
為替レート EURO/Yen

138.20
139.39

為替前提

135.00
135.00

2023年3月期上半期決算説明会

© TDK株式会社・2022
IR・SRグループ・2022/11/1・16

第3四半期のセグメントごとの売上増減見通しについてご説明します。

売上高合計は、上記でご説明したマクロ環境及び下期の為替前提を対ドル及びユーロで135円とした場合、第2四半期に対しマイナス3%～横ばいと予想しています。

受動部品セグメントは、自動車生産が回復傾向となるうえ、EV化、ADAS化の進展により需要が堅調であるものの、季節要因も鑑みてマイナス1%～マイナス4%と予想しています。

センサ応用製品セグメントは、主要市場の動向を踏まえ±0%と予想しています。

磁気応用製品セグメントは、PCやデータセンター向けでHDDの需要が低迷しているため、マイナス14%～マイナス17%と予想しています。

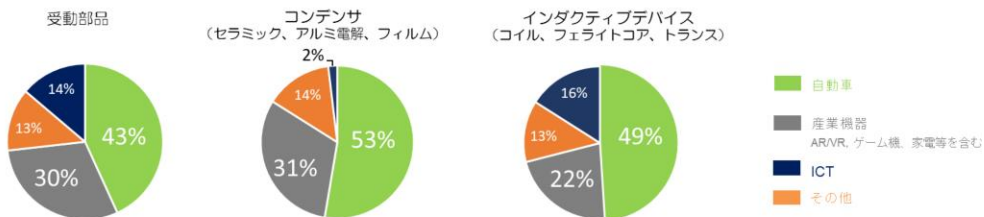
エネルギー応用製品セグメントは、中型二次電池が堅調となる一方で、ICT市場の動向を鑑み±0%と予想しています。

今後の施策のポイント

●受動部品事業

- 車載（ADAS、環境対応車）、省エネ関連需要を取り込む製品ポートフォリオの強化を継続
- 期初発表のセラミックコンデンサの増産投資は予定通り実施
 - 高温度保証、高電圧対応、安全設計樹脂電極
- EV、再生可能エネルギー用途のフィルムコンデンサの増産
- 車載ネットワーク用EMIフィルタ、電源系インダクタの増産

市場別売上高比率（2023年3月期 2Q実績）



2023年3月期上半期決算説明会

© TDK株式会社・2022
IR・SRグループ・2022/11/1・17

各セグメントの今後の施策のポイントをご説明します。

受動部品セグメントについては、EPCOSの買収、セラミックコンデンサを中心とした事業構造改革、自動車・産業機器向けを中心とした開発投資と拡販活動の結果、受動部品の売上高に占める自動車向け比率は43%、産業機器向け比率は30%となっています。脱炭素社会の流れの中で急激な普及が見込まれるEVを中心とした車載市場や再生可能エネルギー、省エネ関連市場に対応できる製品ポートフォリオと、グローバルな供給体制が構築できてきていると認識していますが、今後もさらなる強化を図る方針です。

セラミックコンデンサについては、高温度保証、高電圧対応等といった製品力を高めるとともに、需要増加に対応するため期初に発表した増産投資を予定通り実施していきます。

フィルムコンデンサについても、EV用途、再生可能エネルギー用途等での需要増加が期待されるため、高電圧品の開発を継続しながら増産投資も行います。

インダクティブデバイスについても、フェライト等の素材をベースとした製品開発力と巻線、積層、薄膜等の蓄積されたモノづくり力を融合し、コンデンサと同様に、EV、ADAS等の市場ニーズに応えられるよう開発及び増産投資を継続していきます。

今後の施策のポイント

● センサ応用製品事業

- ICT市場向け磁気センサ（TMR）の増産
- 自動車向け温度・圧力センサ、磁気センサ（TMR）の販売を拡大
- MEMSセンサの顧客基盤、アプリケーション基盤の拡大を推進

● 磁気応用製品事業

- 磁気ヘッド：MAMRヘッドの拡大、次世代技術HAMRの開発継続
- マグネット：生産性の改善の継続

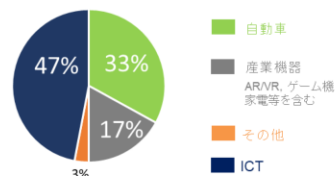
● エナジー応用製品事業

- 中型二次電池市場向けCATLとのJVは予定通り進捗
- エネルギー供給懸念から家庭用蓄電システムの需要が拡大
- 標準電源ビジネスの更なる拡大

Attracting Tomorrow 

市場別売上高比率（2023年3月期2Q実績）

センサ応用製品
（温度・圧力センサ、磁気センサ、MEMSセンサ）



2023年3月期上半期決算説明会

© TDK株式会社・2022
IR・SRグループ・2022/11/1・18

センサ応用製品セグメントについては、売上高に占めるICT比率は47%、自動車比率が33%、産業機器比率が17%となります。

磁気センサのTMRセンサについては、販売がスマートフォン向けに増加しましたが、今後もカメラの高機能化に伴う需要の増加が見込まれます。TMRセンサは、スマートフォン用途だけでなく、自動車向けの電動パワーステアリングや、ブレーキ等のモータ用角度センサや電流センサとして採用が始まっています。これらの需要増加に対応するため、引き続き積極的な増産投資を行います。

温度・圧力センサ、磁気センサのホールセンサは、EV化や電装化、自動運転化に伴い需要増加が見込まれるため、今後もさらなる販売拡大を目指します。また、MEMSモーションセンサ、MEMSマイクロフォンについても、これまでと同様に顧客基盤、アプリケーション基盤の拡大を推進していきます。

磁気応用製品セグメントについては、ヘッドにおいて短期的にはHDDの生産台数が低迷していますが、中長期での事業成長を見据えて、MAMRヘッドの生産を拡大させ、さらには次世代技術であるHAMRの開発を継続していきます。課題事業であるマグネット事業は、生産性の改善に引き続き取り組んでいきます。

エナジー応用製品セグメントについては、中型二次電池事業におけるCATLとのJVは遅滞なく進んでいます。直近においては、ロシアによるウクライナ侵攻に伴う地政学的リスクの高まりによるエネルギー供給懸念を背景に、家庭用蓄電システムの需要が急速に高まっています。電動二輪車用やドローン用電池等、今後の成長が期待される需要も取り込んでいきます。

短期的には世界経済の減速懸念が高まっていますが、ご説明した各施策を確実に実行し、中長期的な企業価値の増大を図っていきます。

以上が私からの説明となります。ありがとうございました。

将来に関する記述についての注意事項

Attracting Tomorrow



この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといいます。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

また、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は、以下のページに後日掲載いたします。
https://www.tdk.com/ja/ir/ir_events/conference/2023/2q_1.html